

会議名	令和7年度 第2回 MINATOビジョン コ・デザイン会議
開催日時	令和7年12月18日(木曜日)午後6時30分～午後8時10分
開催場所	区役所 914・915会議室
委員	出席者：泉山墨威委員、遠藤まめた委員、大木聖子委員、金圓景委員、古長谷鷹念委員、コバーチ・エメシエ委員、杉山琴珀委員、藤原和広委員、森山誉恵委員 欠席者：佐々木孔明委員、中川哲委員
事務局	出席者：清家区長、大澤副区長、浦田副区長、新宮教育長、野上企画経営部長、相川企画課長
傍聴者	3人
会議次第	開会 1. 将来像案について 閉会
配付資料	[事前配付] 資料1 第22回 MINATOビジョン コ・デザイン会議 [席上配付] 1 第2回MINATOビジョン コ・デザイン会議 将来像案へのコメント 産業・地域振興分野 佐々木孔明委員 2 第2回MINATOビジョン コ・デザイン会議 将来像案へのコメント 教育分野 中川哲委員 3 第2回MINATOビジョン コ・デザイン会議 座席表
会議の結果及び主要な発言	
清家区長	開会 お時間になりましたので「第2回MINATOビジョン コ・デザイン会議」を開会します。座長を務めます、港区長の清家愛です。本日もよろしくお願いいたします。 会議の出席状況ですが、佐々木孔明委員、中川哲委員が都合により欠席となっております。本日の会議は会場やオンラインでの傍聴が可能となっております。オンラインで傍聴される方にも分かるように、発言される際は最初にお名前からおっしゃっていただければと思います。よろしくお願いいたします。 11月14日に開催しましたMINATOビジョン・タウンフォーラム報告会におきまして、区民をはじめ港区に関わる約100名の方々が2040年代の港区の将来像案を発表し、これに対し委員の皆様からコメントをいただきました。各分野の専門的な知見からコメントをいただくことができ、大変有意義な時間となりました。この場をお借りいたしまして改めてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。 本日は2040年代の港区の将来像案につきまして、MINATOビジョンコ・デザイン会議の皆様と意見交換をさせていただきたいと思います。

短い時間ではございますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それではお手元の次第に沿って進行を進めさせていただきます。資料に不足がございましたら事務局までお申し出ください。

1. 将来像案について

まず「1. 将来像案について」です。

MINATOビジョン・タウンフォーラム報告会で皆様からいただきましたご意見と、修正を行いました将来像案につきまして、ご説明をさせていただきます。事務局から説明をお願いいたします。

相川課長

事務局企画課長の相川です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私からは2040年代の港区の全体の将来像案と分野別の将来像案について、先日のMINATOビジョン・タウンフォーラム報告会における委員の皆様からいただいたコメントと併せてご説明させていただきます。それでは配布資料の4ページをご覧ください。

全体の将来像案についてです。2040年代の港区の将来像は、「今を引き継ぎ、社会課題を乗り越え、未来を創る。「歴史と未来」「都会と自然」「地域と世界」が交差し、一人ひとりが自分らしく、幸せに暮らせるまち。」です。

また、将来像の具体的な姿として大きな柱を3つ設定しております。1つ目は新しい風が吹くまち、2つ目は「美しく心やすらぐまち」、3つ目は「みんなが支え合うまち」です。

次に5ページをご覧ください。先ほど将来像の実現に向け、港区が大切にしていく想いを示しています。「理想の未来を実現するためには、想いを1つにすることが不可欠です。誰もが幸せを感じられることを目指し、港区に関わる人たちが協力し合いながら歩みを進めていきます。」そのうえで「一人ひとりの幸せを実現する」「地域のみんなで未来をつくる」の2つを重要な視点として設定いたしました。

次に6ページをご覧ください。MINATOビジョン・タウンフォーラム報告会において委員の皆様からいただいたコメントを掲載させていただいておりますので、意見交換の際の参考としてください。

次に分野別将来像案についてです。9ページをご覧ください。最初に子ども・子育て分野の将来像案です。子ども・子育て分野の将来像案は「子どもたちとともに描く。今を生きる子どもを未来へつなぐまち」です。

具体的なまちの姿として、1つ目は「子どもたちがのびのびと過ごせるまち」、2つ目は「子育てとやりたいことを両立できるまち」、3つ目は「子どもを地域で育むまち」です。

10ページをご覧ください。タウンフォーラム報告会でいただいたご意見です。このうち森山委員のご意見の青字部分「声を上げづらい子どもたちの声を拾えるまち、という観点を是非入れさせていただきたい。」「中高生の声も政策に生かせるよう追加してほしい。」を踏まえまして、9ページの3つ目のまちの姿「子どもを地域で育むまち」において、黄色の網掛け部分を追加しております。

次に福祉・保健分野の将来像案です。11ページをご覧ください。福祉・保健分野の将来像は、「孤立させない地域の輪をつくる。お互いが支え合い、一人ひとり自分らしく暮らせる健康福祉先進都市」です。

具体的なまちの姿として、1つ目は「誰にでも居場所があり、互いを支え合うまち」、2つ目は「身体に向き合い、健やかに暮らせるまち」、3つ目

は「ニーズに合ったサービスが受けられるまち」です。

12ページは金委員からいただいたご意見の4点を掲載しております。

次にまちづくり分野の将来像案です。13ページをご覧ください。まちづくり分野の将来像は「“ひと”をまんやかに“港区ならでは”をつくる。これまでに紡ぎ、未来へ駆ける心躍るまち」です。

具体的なまちの姿として、1つ目は「港区の魅力が際立つ美しいまち」、2つ目は「人々の暮らしと活動を支えるまち」、3つ目は「みんながワクワクするまち」です。

14ページには泉山委員からいただいたご意見の要点を掲載しております。

次に環境・リサイクル分野の将来像案です。15ページをご覧ください。環境・リサイクル分野の将来像は「みんなの意識と行動が未来を変える。自然が暮らしを彩るサステナブルシティ」です。

具体的なまちの姿として、1つ目は「脱炭素型のまち」、2つ目は「都会と自然が共生するまち」、3つ目は「3Rで循環型のまち」です。

16ページは藤原委員からいただいたご意見です。このうち青字部分「世界に誇れる環境都市」「区、事業者、区民が同じ方向性や価値観を共有する」を踏まえまして、15ページの1つ目のまちの姿「脱炭素型のまち」において、黄色の網掛け部分を追加しております。

次に防災・危機管理分野の将来像案です。17ページをご覧ください。防災・危機管理分野の将来像は「今と未来を守るために備える。住民同士が支え合う防災・危機管理モデルシティ」です。

具体的なまちの姿として、1つ目は「コミュニティで助け合うまち」、2つ目は「災害を低減するインフラ整備が進んだまち」、3つ目は「テクノロジーを活用し暮らしを守るまち」です。

18ページには大木委員からいただいた意見の要点を掲載しております。

次に産業・地域振興分野の将来像案です。19ページをご覧ください。産業・地域振興分野の将来像は「文化と芸術がまちを織りなす。人と企業が共創するグローバル・クリエイティブシティ」です。

具体的なまちの姿として、1つ目は「創造と交流があふれ、進化するまち」、2つ目は「世代も国籍も超えて、つながりが広がるまち」、3つ目は「世界と歴史が出会う、文化が息づくまち」です。

20ページには佐々木委員からいただいたご意見の要点を掲載しております。

最後に教育分野の将来像案です。21ページをご覧ください。教育分野の将来像は「今日までを大切に、明日を考え、未来へ進む。学びの種が芽を出し、世界へ伸びていく教育都市」です。

具体的なまちの姿として1つ目は「安全・安心ないきいきしたまち」、2つ目は「歴史や文化に親しむ心が育つまち」、3つ目は「テクノロジーで人の可能性を高めるまち」です。

22ページには中川委員からいただいたご意見の要点を掲載しております。

将来像案の概要の説明は以上となります。

本日はこの案をもとにまずその分野の関係が深い委員からご意見をいただき、その後、委員の皆様にはご自身の分野にとらわれず、フリーディスカッション形式で自由にご意見をしていただければと思います。事務局からの説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

清家区長	<p>それでは将来像案について意見交換をさせていただきたいと思ます。最初に子ども・子育て分野の将来像についてです。資料の9、10ページをご覧ください。子ども・子育て分野の将来像について、まず森山委員からご意見をいただければと思います。</p> <p>森山委員、よろしく願いいたします。</p>
森山委員	<p>まず、コメントを反映いただいてありがとうございます。前回、区民の皆さんたちにお話をいただいたところが中心だったので、私としては十分網羅されているのではないかと読んでおりました。1点追加してよければ、何を軸にするのかということ考えたときに、是非子どもの権利保障の観点がどこかに入ると、いいのかなど。達成できているかどうかということを図りやすいのではないかとおりました。</p> <p>子どもの権利の中には、教育、学ぶ権利だけではなく、昨今、本当に子どもが疲れていたり、ストレス社会になっていっている中で、休む権利、遊ぶ権利など、様々な権利が世界的にも規定されておりますので、一人ひとりの子どもたちの保障されるべき権利が保障されているという観点が入ると、より達成できているかということが図りやすいのではないかとおりました。以上です。</p>
清家区長	<p>森山委員、ありがとうございます。続いて、人権・男女平等分野の遠藤委員にも子ども・子育て分野の将来像についてご意見をうかがえたらと思います。よろしく願いいたします。</p>
遠藤委員	<p>ありがとうございます。追加いただいたことで明確になったと思、ありがたいなと思って見ていました。割と網羅されているかなと思ます。</p>
清家区長	<p>遠藤委員、ありがとうございます。そのほかの委員の皆様、ご意見などありましたら、是非お願いいたします。古長谷委員。</p>
古長谷委員	<p>一点、子ども・子育て分野において、港区には子育てをしていない大人もたくさんいて、地域で育てるというメッセージを入れてもいいのかなと思ました。子育てをする人だけが港区民ではないので、そういった意味で港区全体として子育てに対してポジティブになれるとより良いのではないかと。例えば電車の中で赤ちゃんの泣き声が聞こえたらそれを温かく受け止められるような、そのような雰囲気づくりも大切ではないかと感じております。</p>
清家区長	<p>ありがとうございます。ほかに委員の皆様ご意見がありましたら是非お願いいたします。はい、金委員。</p>
金委員	<p>非常に大事なところは、声を上げづらい子どもたちというところがとても大事だと思っていて、あわせて、子育てをしている親の中にはダブルケア中の方々もいらっしゃるの、そういった視点も踏まえて子どもの権利保障、そして子育てをしている方々の権利保障もあわせて考えていく必要があるのかなと思ました。</p>
清家区長 泉山委員	<p>ありがとうございます。そのほか、泉山委員お願いします。</p> <p>子ども・子育ての関係で、どうしても行政の政策で縦割りになってしまうと思うのですけれども、まちづくりの観点でも、例えばベビーカーを引いていくときの歩道の扱いは、大人のバリアフリーと子どもでは全然違いますし、車の安全であったりということも、ゾーン管理であったり、車がスピードを落とすというところであったりするので、子育てしやすいまちの環境ということも、子育て施策とまちづくりが連携していくといいのかなと思ました。</p>
清家区長	<p>そのほか、皆さんご意見ありますでしょうか。</p> <p>ありがとうございます。たくさんご意見をいただきました。子どもの権</p>

	<p>利の保障であるとか、子育てをしていない人も地域でポジティブに子育てを受け入れていける雰囲気をつくっていく、また、ダブルケアの人などもあるので子どもの権利とともに子育ての権利の保障、それからまちづくりの面でもベビーカーや車の安全などを踏まえて子育てしやすいまちにしていくというご意見をいただきました。ありがとうございます。</p> <p>続きまして福祉・保健分野の将来像についてです。資料11、12ページをご覧ください。福祉・保健分野の将来像について、まず金委員からご意見をいただければと思います。よろしく申し上げます。</p> <p>孤立させない地域をつくるようになったときに、この先シングルを生きる人々は明らかに増えていきます。単身世帯が増えていく中で、今高齢者の方だけでなく、これからこのまちで高齢になっていく方々のための支援、その方々が望むまちはどのようなものなのかを一緒に考えていく必要があるのかなと思います。</p> <p>そういう意味では今現在の高齢者の方々のニーズ調査だけでなく、これからこのまちで安心して老いていくためにどのようなまちづくりが必要なのかという意見などを聞くことも必要になるのかなと思います。</p> <p>あわせて、支えられるだけではなく支える側にもなるということを考えると、特に港区の場合は、歴史と未来が交差するところを前に出していただいたのですが、このまちで長く住んでいた高齢者の方々、歴史をよく知っている方々が活躍できる場をより広げていっていいのではないかなと思います。</p>
金委員	<p>金委員、ありがとうございます。そのほかの委員の皆様からもご意見ございますか。遠藤委員お願いします。</p>
清家区長	<p>2つ目の「身体に向き合い、健やかに暮らせるまち」のところで、治療方法は載っているのですが、健康診断の受診とか、そのあたりの話も入れたほうがいいかなと思います。受診していない人もいると思うので、受診しやすくするというのも入れてもいいかなと思いました。</p>
遠藤委員	<p>ありがとうございます。森山委員お願いします。</p>
清家区長 森山委員	<p>こども家庭庁でも子どもの年齢を定めなくなったので、子どもなのか子どもではないのか、というところで、私自身も悩みながら先ほどはコメントをしなかったのですけれども。中高生もそうですし、中学生以降の子ども・若者の支援が全国的に足りないというのは、港区に限った話ではないのですけれども。中高生は子どものほうに入れさせていただいたので、それ以降の20歳前後の若者の自立や、孤立の問題というのは現場でも非常に深刻でして。特に親に頼れない、住まいがない、もしくは就労面で障害というほどではない、生活保護というほどではないけれどもなかなか難しいところをどのようにケアしていくか。都営住宅・区営住宅などありますけれども、非常に倍率が高くて皆さん入れる状況ではない中で、水商売であったり、犯罪であったり、そういったところでしか、自立と呼べるのか分からないのですけれども、なかなか難しいという若者の層が今非常に多くて、それがトローコや、オレオレ詐欺など、そういったところの望まない形で、そういった形で流れていく若者が非常に多くなっております。これは全国的にはあるのですけれども、港区でも住まいや就労など、すぐに自立を強いる形よりはもう少し緩やかにか、クリエイティブに解決していくような、そういった解決策が港区であればできるのではないかと考えております。そういった観点も、もしかしたら産業の部分かもしれないのですけれども、是非取り組んでいただければ全国でもモデルがまだなかなかないので、ありがたいなと思っております。</p>

清家区長 古長谷委員	<p>ありがとうございます。そのほか、古長谷委員お願いします。</p> <p>高齢者、障害者、生活に困っている方々への支援という観点から申し上げますと、港区では移住者の方々も多く、小さい頃から港区に住んでいる方などですと、地域の方々の接点があったりするのですが、外部から引っ越しされた方はここに来てなかなかつくりづらく、そもそも見つかっていないということが多いのではないかと。まずは地域との接点をつくるというようなところも大事で、助けるためにはまず存在を知ることが必要で、知らなければ助けることもできないと思って、そういったところも大事なのかなと思います。</p> <p>また、若者がそうした困っている方を支援できるよう、港区の中学校などでそのような授業を取り入れるという形で、教育的な観点から、既にやっていると思いますけれど、そういった意識や取り組みが広がっていくことも含めて推進していくべきだと思います。</p>
清家区長 古長谷委員	<p>若者が中学などの授業で、というのは支える側ということですか。</p> <p>支えられる側にも支える側にもなる可能性があり、その両方を含めた教育的な取り組みを進めるべきだと思います。</p>
清家区長	<p>ありがとうございます。そのほか委員の皆様からご意見ありましたら是非お願いいたします。こちらから振ってしまっているのか、大木委員。有事の際に要介護者や障害者といった要配慮者への支援をどうやって行っていくかという課題があると思うのですが、こうした地域のつながりが希薄化しているという話が先程来、出ておりますけれども、そうした点についてはどのようにお考えかお聞かせ願いますでしょうか。</p>
大木委員	<p>防災・危機管理のところを除いた港区が実現すると、危機管理も自動的にできるというそういう形になっているなと思います。逆に言うと、災害時を想像すると弱点が顕著に出てくるという、そういった意味では、要配慮の方など、今、誰一人取り残さないというふうに言われていますけれども、先の災害、能登半島地震とかそういった災害では、福祉避難所が開設されたかどうかの情報が分からなかったので行くことができない、つまり避難所に行くということの労力が健常の方々よりもものすごく大きいわけですね。行ってみて開いていなくて戻ってくる、その往復だけで命に危険があるとか、情報がそもそも届かないとか。そういった問題が東日本大震災でも10年以上たって、能登半島地震でも、起きていて。そういった意味ではうまくいった事例ではどうだったかという、平時から何となくみんな集まっている場所があった。だから地震が起きたあとも、ちょっと行ってみようかな、誰かがいるかも、と行って行ったところはすごくうまくいったのですよね。なので、そういった切り口で考えても普段からコミュニティとしてできているとか、そういったことが非常に重要。この福祉のところだけではないですけども、子どもたちとか、そういった文脈も含めて、そういったまちになっているということが非常に重要なのだなということは感じています。</p>
清家区長	<p>普段からコミュニティができているということですね。ありがとうございます。</p> <p>ほかにどなたかご意見がある委員、いらっしゃいますか。大丈夫ですか。ありがとうございます。</p> <p>今、皆様からいただいた意見で、歴史をよく知っている人たちが活躍するということも考えられる。支える・支えられる側、どちらもなるという話、受診しやすくする環境をつくっていくこと。また20歳前後の若者の</p>

古長谷委員	<p>自立・孤独の問題に対して住まい、就労などをクリエイティブに解決できるような港区ならではの環境をつくっていくというお話。それから中学生など、教育の場面で支える・支えられる側になるということについて、ここはうまくまとめられない。</p> <p>例えばですけれど、生活保護の受け方などを中学校では学ばないことであって、ただ、高校生になってから義務教育が外れてしまったというときに、生活困窮者になったら区役所を頼るというようなことをそもそも知らない。そういったことを含めて教育で学んだほうが良いということだと思います。</p>
清家区長	<p>分かりました、ありがとうございます。</p> <p>また、外部から来た方々に地域と接点を持てるようにそうしたことをつくっていくというお話と、平時からつながれるコミュニティができていくということが災害時にも非常に重要だというお話をいただきました。委員の皆様からのご意見をまとめさせていただきたいと思います。</p> <p>次にまちづくり分野の将来像についてお話をしたいと思います。資料の13、14ページをご覧ください。まちづくり分野の将来像について泉山委員からご意見をいただければと思います。泉山委員、お願いいたします。</p>
泉山委員	<p>いただいたものはいい方向性だなと思っております。特に「ひとをまんやかに」という、これからテクノロジー、AIなど効率重視になっていくところの時代の中で、人とか人間性とか情緒の価値をうたっていくことは大事だというのがあるので、そういう意味で「ワクワク」といったことがあるというのはよいと思っています。</p> <p>2040を考えると、モビリティ革命じゃないですけれども、車が自動運転になっていくというときに、道路空間がもっと車が減っていくと、子どもたちが道路で遊ぶなど、多分まちの30%くらい道路があるので、そういう部分があるのかなと思っております。</p> <p>2点目が、港区のイメージと、港区にあるそれぞれのまちのイメージが乖離している、というイメージがありまして。</p> <p>例えば六本木、新橋、青山、芝などそれぞれ個性があるまちの印象が強いのですが、港区と聞くと、イメージは湧かないところがありまして。これはやはり港が産業港になっていて、人が近づく場所になっていない。これは大きい話ですけれど、2040年までを考えると、運河の話もありますけれど、ウォーターフロントをもう少し、区民が使えるような場所に変わっていくということが、東京都も含め、色々変えなければいけない部分ですけれども、ということがあると思います。</p> <p>超高層、開発、ビルもありつつ、足元は坂道、水辺など下町的な要素があるというのが、色々なモザイク状にまちの個性が出ているということがあるので、それが、紙面上難しいところがあるのですが、金太郎飴、同じようにできるところではないということもあるので、まちの個性に合わせてまちづくりの政策を進めていくべきだと思います。以上です。</p>
清家区長	<p>ありがとうございます。おっしゃるとおりです。そのほかの委員の皆様からご意見がございましたら是非お願いいたします。それでは藤原委員、まちづくり分野の将来像で、水辺、緑といった自然環境に触れられていますが、自然を活用したまちづくりについてはどのように進めていくべきとお考えでしょうか。</p>
藤原委員	<p>泉山委員から「ハード・ソフト両面での対応」に関するご説明がありま</p>

清家区長

したが、単なる箱物の整備にとどまらず、そこに集う人々を重視する必要があると考えます。特に港区においては、夜間や週末に過ごす区民（夜間人口）だけでなく、日中働く方々（昼間人口）も含めて、どのように緑の質をさらに向上させていくかという仕組みづくりが求められます。そのためには、環境部門や有事の防災部門などとも連携を図りながら、包括的かつ継続的に取組を進めていくことが重要であると考えます。

大木委員

ありがとうございます。大木委員に伺いますが、まちづくりの中でもインフラの整備で、防災の視点が欠かせないと考えられると思うのですが、どのようにまちづくりの中にこうしたことを組み込んでいけるとお考えでしょうか。

災害には色々な種類がありますが、港区では圧倒的に足りていないのは学校すぐ近くの空地だと思うのですね。普通学校をつくる時は、必ずそこに隣接するような形で空地、公園を用意する、皆さん子どもの頃に学校の帰りに寄り道して公園で遊んでいて怒られた、というような経験があるかと思うのですが、港区では家が建っている中に学校ができていますので、新しく創設した学校でなくても、元々ある、古くからある学校であっても空地がないのですよね、通学路に公園が非常に少ない。芝公園のような大きい公園があるという良さもあるのですが、ちょっとした空地が少ないのですよね。それが災害時に何をもらすかという、火の延焼を止められないという事態をもたらします。また、そういった公園が広域避難所になる。火災が起きたときにいったん集まるというような場所、つまり校庭の広さプラス横にある空地で、そういった避難場所に指定されるはずなのですが、おそらく港区、それから品川区もそうですが、学校イコール広域避難場所と考えてふつうは問題がないのですが、そのように指定されている学校が少ないなという印象なのです。

清家区長
コバーチ委員

そういった意味では、今は人口が増えていく段階ですが、どこかの段階で港区といえども人口が減っていくタイミングが訪れると思うのです。そういったときにどういったところからシュリンクする、人口減少するまちづくりというような考え方をどこかでとらなくてはいけなくなるのですが、そういったときにどういった部分から空地、公園に戻していくのか、そういった視点もこの先、2040より先は必要になってくる。2040の時点ではそれを睨みながら都市開発を行っていかねばいけないのではないかなと感じています。

ありがとうございます。そのほか委員の皆さん、ご意見ありますか。外国人から見ることもありますが、確かに将来的に港区はどのような感じになるかという、多分車より自転車に乗っている人が多くなると思います。外国人もそうなのですが、特に港区は狭いというかそれほど距離がないので電車に乗るよりはかなり便利です。自転車に乗って移動するのが便利ですけれど、1つだけ私の周りから来た情報なのですが、レインボーブリッジは港区です。レインボーブリッジは自転車で通れないそうです。押していける感じなのですが、あれはかなり皆さんから不便だなという話になっているので。やはりレインボーブリッジを渡ってお台場に行く人たちなど、週末に外で時間を過ごすためにはレインボーブリッジがちょうどいいかなという話が合ったのですが、安全のためにということはもちろん分かりますが、安全のために歩いている方と自転車は一緒にはできないということで押さなければならないのです。それは長いですが、レインボーブリッジは30分かか

清家区長

ります。アイデアとしては、例えば左側を自転車、右が歩いている方になれば、という話は、外国人の中で既に上がってきているので、というアイデアです。

分かりました。ありがとうございます。人を中心に考えたまちづくりということをおっしゃっていただきました。

そのほかご意見などありましたら是非お願いいたします。大丈夫ですか。

ありがとうございます。様々にご意見をいただきました。いただいたとおり、港区は様々な個性があるまちなので、金太郎飴みたいにならないようにということで、それぞれのまちの個性に合わせたモザイクのまちづくり、賛同いたします。またウォーターフロント、市民が親しめるようにということで進めていきたいというふうに思います。

また、ご意見をいただきましたモビリティがやはり、この近い将来だと思えますけれども、大きく変わってくると思うので、そうした人の移動も大きく変わってくるかなと思います。お声がけいただいたように、人を中心とした、人を真ん中にした港区ならではのまちをつくっていくことが本当に重要だと改めて思いました。

防災面からも2040年にはシュリンクも考えるということ、今の時点ではまだまだ増えるということ想定をしていたので、そういう視点も必要なのだと改めて思います。ほか大丈夫ですね。

それでは次は環境・リサイクル分野の将来像についてです。資料の15、16ページをご覧ください。環境・リサイクル分野の将来像について藤原委員からご意見をいただければと思います。よろしくお願ひします。

藤原委員

資料において、環境・リサイクル分野の方向性が『脱炭素型のまち』『都会と自然が共生するまち』『3Rで循環型のまち』の3要素にコンパクトに整理されており、目指すべき方向性として違和感なく受け止めました。また、前回私が要望いたしました『国際都市としての観点』および『行政、事業者、区民が同じ方向を向いて取り組む姿勢』を資料に反映していただき、感謝申し上げます。

一点検討をお願いしたい点として、『国際的で世界に誇れる』という要素が現在は『脱炭素型のまち』の項目に記載されていますが、これは自然共生や循環型社会など環境施策のすべてにかかる重要なテーマです。将来の目指すべき全体像の中に、この観点をどのように織り込むかをご検討いただきたいと考えております。

また、自治体の課題としては、子どもや防災といった喫緊の課題が優先され、環境がどうしても後回しにされがちな傾向があります。これを解消するためには、環境単独で考えるのではなく、『まちづくりとセットで環境をテーマに人々が集う』『防災の観点から脱炭素エネルギーを確保する』など、他分野と相互に組み合わせながら進めていくことが、環境施策の着実な浸透につながると思います。

さらに、環境に関心が低い層の意識を変えることは一朝一夕にはいきません。事業者、区民、そしてそれを支える行政がそれぞれの役割のもと、長期的かつ地道に取組を進めていくことが重要であると考えます。

清家区長

藤原委員、ありがとうございます。そのほか委員の皆様からご意見がありましたら是非お願いいたします。

泉山委員

脱炭素もまちづくりのほうでも非常に注目されているのですけれど

清家区長	<p>も、どうしてもヒルズですとか民間開発で促進していくところが強いところがあります。そうなってくると開発が少ないところは脱炭素しにくいところがあるので、そこは公共性で頑張っていかなければならないところがあるのかなと思うので、道路を含め、まちを変えていくところなのかなと思います。私は環境の分野の委員ではないのですけれども、2040のビジョンで、3Rはちょっと古いのではと思ひまして、サーキュラーエコノミー、循環など色々なキーワードが出てきているので、はやりの言葉を入れるのがいいということではないのですけれども、表現というところ。</p> <p>そうですね。ありがとうございます。そのほかに皆さんご意見などありましたらお願いします。</p>
古長谷委員	<p>古長谷委員、環境問題を自分事にするという視点は特にこれからを担う若者に持っていただくことが重要だと思いますが、若者に意識してもらうためにどうやって取り組んだらよいとお考えでしょうか。</p> <p>若者に対して、結局は環境の問題はコストバランスだと思っていて、今の若者はタイパなど時間も含め色々考える中で、分別する時間より捨てるのが早いほうが良いなど、その価値観を変えるということは難しいと思います。</p> <p>逆にそうしなくてはいけないようなやり方のほうを変えて、そうせざるを得ない、という方向にしていくと、若者の意識が変わってなくても結果的にそうなっている、という状態になることが最善ではないかと考えます。社会的に正しいというようにやり方を変えるというか、方法を提示する、そうしないといけない方向にもっていくというような、外的要因を変えていくことが重要なのかなと考えます。</p>
清家区長 古長谷委員	<p>例えば。</p> <p>例えば、海外の事例ですと、環境とは少し違いますけれど、ポイ捨てなどで、問題をまちの中に置いてどちらに投票しますか、その投票が全部ごみで投票されているというような、行動心理学においてごみを捨てないでそこに入れることで投票できたりとか、そこに別の目的を見せてあげることによって結果的に解決しているなど、そういったことです。</p>
清家区長	<p>ありがとうございます。ほかにご意見ございませんでしょうか。</p> <p>先ほど泉山委員がおっしゃっていた、民間開発で環境問題を解決していくという話で、開発がないところは何かおっしゃっていたのでしょうか。</p>
泉山委員	<p>街路樹を入れていただけだと限りがあるかなと思うので、小さい中小の民地の建物にも緑を増やすこともあると思いますし、あるいは全体としてCO2を下げているという取組が必要なのかなと思います。</p>
清家区長	<p>ありがとうございます。ほかにはご意見ございますか。</p> <p>いただいたご意見をまとめていきたいと思っています。</p> <p>次は防災・危機管理分野の将来像についてです。資料の17、18ページをご覧ください。防災・危機管理分野の将来像について、大木委員からご意見をいただければと思います。大木委員、お願いします。</p>
大木委員	<p>意見を申し上げる前に、この右のページから左のページに採用された・採用されないは、どういうふうに決まったのですか。</p>
相川企画課長	<p>こちらはどのように入れた・入れないということなののですけれども、文章の中でなんとなくこのように読めるのではないかとということ、採用しないと全く分からないということ、これは入れるということにしました。いただいたご意見は、ここでの反映が直接なくても、今後令和8年度で政策をつくっていきますので、その中で具体的にいただいた文言を入れさ</p>

大木委員

せていただこうと考えております。

分かりました、ありがとうございます。

左のページについてのコメントなのですが、多くの人は防災対策が東京都の所掌事項なのか、国の所掌事項なのか、基礎自治体所掌事項なのかをほとんど区別なく生きていて、ここも混然一体となっているのですね。その中で港区が、ということをおの中でどのように出すかということをお、港区の立場としてはしっかり入れたほうがいいのではないかなと思いました。

そもそも災害には色々な種類があるので、具体像、しかも次に起きる災害がどんな姿なのかということは専門家も誰も分からない、具体像がない中で漠然と考えていただいているので、どうしても総花的にならざるを得ないと思うので、具体化して私のからコメントを付け加えさせていただきます。

大きく17ページの内容はソフト、ハード、今後のテクノロジーという形で書かれていると思います。港区にある事業所は何をするべきか、家庭は何をするべきかという、その2つで考えてみると、耐震化はある程度港区では満たされているので、帰宅困難者を出さないということが本質的に重要になってくると思います。つまり、せっかく生き残った人を死なせないということと、その人たちが帰ろうとすることで救急車が通れなくなるとか、火災が発生したときに出られなくなるとか、第2、第3の被害者を出してしまうという、そういうことを完璧に阻止できるということ。ほかの区だと、例えば自分自身も逃げなくてはいけないという区はいっぱいあるのですが、雨とか色々なタイミングで。港区はそうではないので、だから港区はここまで打ち出せるのだということをお事業者にお指導していく、そういうことにもつながっていくかなと思えます。

ちなみに府閣府から明日、首都直下地震の新しい被害想定が発表されるが、帰宅困難者は840万人想定されています。内閣府の調査ではその半分以上が、守りたい人がいるから帰るとしていて、つまり子どもがいるからなのですね。そうすると、子どもはちゃんと学校が守ってくれていると知っているなど、そういうことがそもそも先に重要になってくるので、防災教育の話を入れたのはそういった趣旨・意図があります。

家庭については、多分多くの人が避難所に行かなければいけないと思っているので、そうではなくて在宅避難が主であると。それは避難というのとはここではないどこかへ行くことだと多くの人が信じ込んでしまっているのをお、その場で難を逃れるというそういう考えをもって在宅で避難できる備えをしておくという視点を入れるといいかなと思いました。

ありがとうございます。ほかにお意見ありますでしょうか。

私は実際に能登の地震3か月後、能登で地域の高齢者把握事業という形でアセスメントを行うために地域に入っていくのですが、聞いた実例として、体育館の開け方が分からなかったから窓を割って入ったなど、住民が混乱状態だったため寒い中、避難所を誰が開けるのかというときに、正月だったということもあったので、鍵を管理しているのは校長しか分からないが、校長と連絡取れないといった、具体的などころまで落とし込んで考えないといけないのかなと思っています。

能登の事例でいうと、大きな問題となっているのは災害ごみの処理施設で、港区では必要がないということが別の話題で出ましたけれど、地震が起きてそういったことになるとその処理はどうするのかという問題が出てくるのですね。埋め立てるのか等、そのあたりも含めたまちづくり

清家区長
古長谷委員

を、そういったことは起こるよねという前提でまちづくりをしていかないといけないのかなと思っています。

港区が動くレベルの災害が起きたとき、区の職員たちも皆さん被災者なので、そこも踏まえて、被災者でも区民に対して提供する立場であるので板挟みの状態になって、疲弊してしまっている。家の状態が分からないのにずっと区民の対応をするというようなことも起こる。実際能登では起こっていました。1か月帰れないことが当たり前、全く帰宅できていない状況が続いていたとのこと。

以上のことも踏まえて、将来像案に記載されている内容は方向性として適切ですが、それが実際に起こる想定で計画をつくっていかないといけないと思います。

また、被災後のアセスメントでは紙とペンが使われ、手書きで地図に書き込む作業でした。その辺りのDXは全く進んでいません。DXも活用しながら、発災後の対応も含めて、より実践的な取り組みを検討できるような将来像にしていくことが必要だと思います。起きたあとも港区だったから大丈夫だったと言える状態には、この将来像案ではなりづらいのかなと思います。

コミュニティで助け合うことは前提として、さらにその先を考えないと、こういう災害では、例えば能登では正月の4時、真っ暗な雪降る中という想定外のことが相次いで発生しているので、皆さん分かってはいるけれど、例えば港区では勤務されている方もいて、先ほど帰宅の話がありましたけれど、港区から他地域へ帰宅しようとする方が一時的に避難所を利用することも想定しておく必要があります。

また港区では富裕層であったり、生活水準に差があることもあるので、そこも非常に意識しながら避難所運営をしないといけないということがあると思います。被災後の実態に即した避難訓練、事前に通告しない避難訓練などを実施するべきなのかなと考えます。

その辺り大木委員はどう考えますか。

大木委員

災害のレベルをまず2つ考えて、国難級と、そうではないくらいのものと考えたときに、一回り小さい、国難級ではないものが起きたときには、これは場所によるのですけれども地震は人を殺さない、建物が人を殺すので、港区に関しては耐震性があるのでそういったものには耐えるのではないかなと。つまり人命についてはある程度大丈夫だけれども、そこから帰ろうとする人たちがどんどん溢れるとか、それについては国難級ではなくても課題になり得る。つまり国難級より一回り小さいと、地震などでは頻度が10倍になりますので、そこは頻度が小さい段階からきちんと伝えていく必要がある。

国難級のものになってくると、あらゆる手段をとってという形になると思うのですが、住民レベルでは例えば先ほどの体育館の話のようなことも阪神淡路大震災からずっと起きていることなのですけれど、例えば板橋区では、日曜日の小学校校庭のサッカー教室は町内会の人が開けるといいうルールになっているので、皆さん鍵の開け方を知っているなど、そういったことは色々なところで取り組まれていると思うので、そういった実践する場を日常の中に落とし込んでいく。その部分は「コミュニティで助け合うまち」に入ってくるかなと思います。

港区の特徴としては事業所が多いということだと思います。事業所は、港区民でなかったとしても昼間港区民として重要なパートナーだと思います。その方々に対して指導というだけではなくパートナーとして、

清家区長 遠藤委員	<p>あなた方の命も守るためには事業所に留まるだけの耐震性があるので留まれるようにしてくださいという、そういった形でコミュニケーションをとっていくことが港区にとっては必要なことになると思います。</p> <p>そういったことができれば国難級に対しても、やっぱり港区はすごいね、と言ってもらえるような自治体に成れると思います。</p> <p>ありがとうございます。どうぞ、遠藤委員。</p> <p>2つ目のところなのですけれど、「ペットと住民と一緒に過ごせるなど、多様なニーズ」とありますけれど、ほかにも避難所を使いづらい人がいると思っていて、障害者、セクシャルマイノリティでカミングアウトしていない人が同性カップルだと居づらいとか、車に避難する話などを聞くのですけれど、そういうこともあるのでもう少し別の話を入れたほうがいいかなと思います。</p>
清家区長 遠藤委員	<p>はい、例えば。</p> <p>障がいがある人、多様なニーズを持っている人がいることも入っているといいかなと思います。</p>
清家区長 金委員	<p>ありがとうございます。金委員、お願いします。</p> <p>多様なニーズのところに关わるのですけれども、海外にルーツのある立場として述べさせていただきたいのですが、日本で義務教育を受けたことがない立場からすると、避難訓練を受けたことがないわけなのですね。港区内もおそらく事業所内で働いている海外にルーツのある方がいらっしゃいますし、住民としても、ほかの地域に比べると一定の割合でいらっしゃるので、そういった方々に対して、文字で知らせること以外の何らかの対策が必要なのかなと思います。</p>
清家区長 泉山委員	<p>ありがとうございます。泉山委員お願いします。</p> <p>まちづくりとか防災と絡めると、避難場所が公園になっていたりと思うのですけれど、普段からその公園を利用していないとなかなかいざというときに使えないということがあって。池袋のIKE・SUNPARKという防災公園が普段から使われていて、そういう例があるのかなということと、コミュニティで助け合うまちについて、近所付き合いが2040にあるのか、という感じがしていて、あきらめるわけではないのですけれど、フェーズフリーというか、日常と非日常の境界をなくしていく、そういうところが必要なのかなと思いました。</p>
清家区長 杉山委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>避難所のことに関連して、避難所トラブルが多いと最近よく見るのですけれど、盗難やプライバシーの確保などの課題が、そういう面で解決されるならいいなと感じました。</p> <p>「コミュニティで助け合うまち」ができれば心強いと思います。災害等は他人事ではないと思うので、私も上京をした身なので地域に顔見知りがある状況では今もないので、住人同士顔が見える関係を築くことがどうやったらできるかということがありますが、困ったときに助け合える関係性はとても心強いと思いました。</p>
清家区長 コバーチ委員	<p>ありがとうございます。コバーチ委員、お願いします。</p> <p>前の港区のミーティングでも話をしたことがあるのですが、港区は大使館も多く、外国人が多いので、災害があるのですけれど地震がない国も多いです。ハンガリーも地震がなくて、地震対策を全く知らない外交官が多いので。</p> <p>来日して港区に住むことになるので登録で港区に来ることまではあるのですが、外交官はそういうことが一切なくて、大使館に勤めている外交</p>

	<p>官はそのまま外務省で登録をするのですけれども、一切私たちはパンフレットなどを見ていないです。この前はミーティングでそのことを言いましたので私はパンフレットをいただきありがとうございます。すごくうれしいです。英語も日本語もあるので、ただ英語版は60ページあるので、どこまでうちの外交官が読んでいるのかちょっと心配なのですが。</p>
清家区長	<p>海外から来る人たちは、何かが起きたときにどういう反応をすればいいか、どこに行けばいいか、何をすればいいかまとめてある、本当に短い、小さい、どなたにも配れるパンフレット。例えば大使館の入り口に置かれるパンフレットが、もちろん英語なので、英語でそういうものがあればとても助かると思います。</p>
古長谷委員	<p>そのようにしていきたいと思います。ありがとうございます。 ほかにご意見はございますか。 ここの3つに入るか分からないのですが、地域の防災協議会などの組織体が区ではあると思いますが、そういったところの年齢層が比較的高いと思っていて。町会の年配の方であったり、そういったところに地域にもともといる高校生、地域でずっと育って小中高とルーツがあったり、なにかしら遅延のある方が多いと思うのですが、そういった若者が入らないといけない状況、先ほども言いましたけれど、自分から志願する人は少ないので、関わっているよということを意識的に、例えば港区のイベントとか各種イベントの都度など港区に関わっている人のリストなどがあると思うので、そういった方々が入るように誘導するなど、仕組み的なところでも変えていかないと、急に入っても分からないし、そういうものがあるということも普通は知らないで、その辺りのコミュニケーションも含め、将来像に入れたほうがいいと思います。</p>
清家区長	<p>ありがとうございます。ほかにご意見ありますでしょうか。藤原委員、お願いします。</p>
藤原委員	<p>皆様のご意見を伺い、大変共感いたしました。一方で、今回はあくまで『ビジョン』の作成であるため、いただいた具体的なご意見をビジョンという上位概念の中にどこまで織り込むか、その落としどころが非常に重要になると考えます。 今回の整理において、大木委員がおっしゃった『ソフト・ハード・テクノロジー』という分類は非常に分かりやすいと感じました。そのうえで、コミュニティのあり方や、我々も携わっている防災における『事前の予防(起こらないための対策)』と『事後の対応(起こったときの対策)』という2つの軸を踏まえ、皆様の意見をどのようにキーワードに落とし込み、最終的なビジョンとして仕上げていくかがポイントになります。</p>
清家区長	<p>ビジョン実現に向けた具体的な取組は多岐にわたりますが、事務局にはこれらをうまく整理していただきたいと期待しております。我々としても、協力できることがあれば積極的に取り組んでまいり所存です。 ほかにご意見ありますでしょうか。まとめていただいてありがとうございます。たくさんいただいたご意見、考えなければならぬお話ばかりいただきました。しっかりと政策に反映させていきたいと思っています。 ビジョンとしてはやはり港区だからできる防災ということをしかりと考えていくことが重要であると、伺っていて思いました。 外国の方、つながっていないマイノリティの方々、そうした方々にも分かりやすい発信は今すぐにもしっかりと反映させてやっていかなければならないことなので、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。</p>

古長谷委員

次に、進ませさせていただきます。産業・地域振興分野の将来像についてです。資料の19、20ページをご覧ください。

産業・地域振興分野の佐々木委員におかれましては本日都合により欠席となっております。佐々木委員からは事前にコメントを頂戴しております。資料として皆様のお手元に配布させていただいておりますので是非ご覧いただければと思います。

若者分野の古長谷委員、産業・地域振興分野の将来像案についてご意見を伺いたいと思います。古長谷委員いかがでしょうか。

前回の会議ではこの意見を述べていなかったのの一つ一つ述べていくと、私はベンチャーキャピタルで、スタートアップに関わる立場として、「創造と交流があふれ、進化するまち」の中で「スタートアップをはじめとする」とありますが、スタートアップを区としてどういうふうに定義しているのかにもよるのですけれど、例えばビルのシェアオフィス、クリエイティブスペースができたからといってスタートアップの人たちが来るかということそんなことはなくて、例えば東京都がやっているTiBという施設があるのですけれど、今どうなっているかということ、無料で使えるのでビジネスパーソンが使っていて若者が居づらいから使わない。本末転倒になってしまっていると感じております。スタートアップが来やすい環境という点では、森ビルが麻布台ヒルズにベンチャーキャピタルを数十社集めるなど、民間での活動・場所は既にあります。

例えば港区でも地域振興の一環でそういうスペースを貸し出せるという話はあると思うのですが、場所があればよいというわけではありません。港区発のスタートアップがうまれて、先輩・後輩関係ができるなど、その生態系がつかれないとこういう話は難しいのかなと思います。港区には大学があるので、大学との連携を深めてそこから生まれたスタートアップは港区でしっかり囲い込むために、これは国単位なので難しいかもしれないのですけれど登記費用の削減をするなど、起業するまでのステップの補助を港区でするなど、母数を増やす活動をする必要があるのかなと、1つ目では思いました。スタートアップというところだけでも、文章として入るのはいいことなのですが、実際にやるための政策等まで落とし込まないと、生態系は一夜でつくれるものではないのかなと思っています。

佐々木委員もおっしゃっていた水辺エリアなどは、先ほどのまちづくりでもおっしゃっていましたが、港区と「港」がついているので重視していいのかなと思っています。

次に町会・自治会、コミュニティのところについては、このような形が生まれるといいのかと思いつつも、誰が主役かというのは、港区に関わる人全てなのですが、町会・自治会に入っているのは高齢者で、若い人はいない現状があるので、既にいる人はそのままの形で、そこにさらに若者が入るといいのかなと思っています。

最後の「大使館」とか、「世界とつながる」というのは、港区は大使館が多く、教育という意味でも家の近くに中国大使館、韓国大使館、ロシア大使館など様々な大使館があることから、そうした大使館にもう一步近づく教育として、大使館の中を見学するイベントなど、実際にはあると思いますがそこが伝わり切っていないのが現状だと思います。広報を港区が全力でバックアップしてあげるなど、大使館ごとにやっているのではなくて、港区としてサポートするのもいいのかなと感じております。以上です

清家区長	<p>ありがとうございます。ほかにご意見ございますか。</p> <p>コバーチ委員、将来像に「グローバル・クリエイティブシティ」とあるように、港区は国際性が特徴的なのですけれど、外国籍の方と日本人が地域でつながりを持つためにどうすることが必要だと考えられますか。</p>
コバーチ委員	<p>一番前にも書いてあるのですけれども、外国人と日本人はもっと近く、お互いを知り合うためには、私の意見ですけれども、子どもの頃から外国人とのつながり・ふれ合いは必要だと思います。</p> <p>今も大使館とのつながりはあるのですけれども、例えば大使館に子どもたちが来たり見学をするということ、外交官が小学校、幼稚園に行ったり、自分の文化を紹介したりというのはあるのですけれど、港区から、外国人のお祭り、色々なお祭りがあります。赤坂サカスなど、多くの大使館が参加するのですが、そういうことをできるだけ増やすという形で、具体的な話ですけれど、どこまで法律的に可能かは分かりませんが、例えば幼稚園、小・中学校には外国でとった教育の資格を持った先生たちを雇うことも将来的にいいかなと思っています。</p>
清家区長 泉山委員	<p>ありがとうございます。ほかにご意見などございますか。</p> <p>「クリエイティブシティ」という言葉はリチャード・フロリダという方がとなえられて、言葉はいいと思うのですけれど、クリエイティブな人が集まるのは結構安くて雑多な場所になるので、そうすると今の港区だと難しくなるので、そういう人が集まれるようなインキュベーションだとか暫定的な場所とか、あるいは実験場のようなチャレンジの場所、中高生からも含めてだと思えるのですけれど、そういう場所があるのかなというのと。</p> <p>下町の産業もあると思うのですけれども、グローバル企業とローカルがどうつながっていくか、産業をつくっていくという意味では重要ななと思いました。</p>
清家区長 杉山委員	<p>ありがとうございます。ほかにある方、はい、どうぞお願いします。</p> <p>国際色のところなのですけれど、ハンガリー大使館に訪問させていただいたのは、大学のプロジェクトでお邪魔させていただいたのですけれど、集まりを港区でやるなど、玄関口が大事だと思っているので、SNSなど、広告を国際色豊かにしてみると、色々な人が集まってイベントが盛り上がるのではないかと思います。</p>
清家区長	<p>ほかにご意見などございますか。大丈夫ですか。</p> <p>ありがとうございます。いただいた意見をしっかりまとめてまいりたいと思います。</p> <p>次に教育分野の将来像について、資料の21、22ページを権ランください。教育分野の中川委員におかれましては本日都合により欠席となっております。中川委員からは事前にコメントを頂戴しております。資料として皆様のお手元に配布させていただいておりますので、是非ご覧いただければと思います。</p>
コバーチ委員	<p>続いて多文化・共生分野のコバーチ委員から教育分野の将来像についてご意見を伺いたいと思います。コバーチ委員いかがでしょうか。</p> <p>教育については、先ほど話したとおりとなりますが、できれば英語能力を高めるためには、幼稚園、小学校、中学校から子どもとの触れ合いがあったほうがよいと思います。</p>
清家区長	<p>ほかの委員の皆さんからご意見がありましたらお願いします。古長谷委員、お願いします。</p>
古長谷委員	<p>産業にも関わってくるのですけれど、港区には大企業も多く、ICTに関して言うと、海外のスタートアップ等と港区との連携について、教育と</p>

いう部分で、区立小学校・中学校と協業するなど、待ちの姿勢ではなく区側から積極的に動くよよいと思います。例えばエーベックスなどエンタメ系の企業もあり、職場体験など、授業に取り組みられると大変有益ではないかと思います。

現在は先生方がアポイントを取って地域の様々な企業を訪問しているのだと思うのですが、企業はインターンなどの受け入れも行ってもらうと思うので、まちの人的資源・会社を全面的に教育に使えるようになるよよいと思っております。

区には教育に熱心な親もいらっしゃるので、私立学校に行くという選択肢もある中で、区立の学校も遜色ないと思われるようなレベル感にどう持っていくのか。教員は都で採用しているから難しいところではあるのですが、区の学校には区が派遣する先生を別途用意するなど、港区らしさを前面に出す教育ができるかと小・中学生も楽しめるのかなと思います。

清家区長
森山委員

ありがとうございます。森山委員お願いします。

既に起きていることではありますけれど、おそらく2040年はAIや、今は高校、不登校が中心ですけれど通信制など、おそらく学校に全員が行く時代ではとっくにないだろうと思っています。そうすると学校が子どもにとって生活の半分を占める居場所である現在とは大きく変わって、ますます家庭内での居場所が重要になったり、教育・福祉の境界線が今よりもあいまいになっていくのではないかと思います。学校が子どもたちに唯一出会える福祉におけるの接点になったりもするのですが、インプット型の勉強はおそらくAIとかテクノロジーで解決していくとなると、公教育はより福祉的な視点、場所的な視点が評価されていくと思うので、今と大きく変わっていくのではないかという意味では、子ども・子育てと教育が分かれていること自体にも違和感があるのですが。2040年はおそらく教育が個別出しされていること自体も見直すべきなのではないかなとか、縦割りをどうなくしていくか非常に難しい問題だと思うのですが、そういった視点がもう少し入っていくと、抜本的な変化が求められるというようなメッセージというのは、そういうものがもう少し見えるといいなと思いました。

また、教育格差は既に広がりつつありますけれども、公教育で一律で、という価値観から、親や家庭の価値観が重視され、市場化も進んでいくと思われまますので、教育格差はますます放っておくと広がっていくと考えております。自治体・教育委員会がどこまでできるかというところはなかなか難しい部分もあるかと思うのですが、そういったところの変化を踏まえて港区としてどこまで子どもたちの権利保障をしていくかというところがますます大事になるのかなと思っています。以上です。

清家区長
遠藤委員

ありがとうございます。遠藤委員お願いします。

2つ目の「歴史や文化に親しむ心が育つまち」の、下の方で「～多くの外国人も含めて、誰もが生涯を通じて自分のペースで学びを楽しんでいます。」の下が、「こうした学びの積み重ねが、自分たちのまちや国を思う豊かな心を～」とありますが、なんとなく日本人が日本のことを考える、と読んでしまったのですが、つながりがあまりないと思って、「こうした学びの積み重ねが、自分と違う人たちとの共生～」などとしたほうがよく、今のままだとどうということなのかとおりが悪いと思います。

清家区長
古長谷委員

ありがとうございます。古長谷委員。

教育という分野を切り分けているところには、子どもだけではなくと

いう視点も入れてもいいのかなと思います。例えばリスキリングなど大人の教育、AI等が発達していく中で既存のものが使えなくなっていったときにそこに対しての教育を区としてどうやっていくのかという方向性が、教育としては子ども・若者になってしまうので、その視点を入れるのも大事なのかなと思います。入れるとしたら3番目のテクノロジーにリスキリング的なこと、大人も対象として、高齢者も含め、一生学び続けられるという視点も大事なのかなと思います。

清家区長
藤原委員

ありがとうございます。藤原委員、お願いします。

子どもに限らない『教育』や『学び』のあり方について、古長谷委員のご意見と重なる部分が多くございます。古長谷委員はテクノロジーの視点から言及されましたが、私としては、そこに『国際的な観点』や『港区ならではの特性』をどのように組み込むかという点に着目しております。

港区ならではの特性として、事業者が多いことや、意識の高いシニア層が多いことが挙げられます。例えば、地域の歴史を熟知したりタイア世代が知識を伝えたり、逆に年配の方が新たな知識を学ぶ仕組みをつくることも、広い意味での『教育』や『学び』にあたります。

このように、国際的な知見を得られる機会を含め、多様な世代が互いに学び合えるような『教育の幅の広がり』を、うまくビジョンに落とし込んでいただければと考えております。

清家区長
泉山委員

ありがとうございます。泉山委員。

やはり大学でいうと、3割子どもが減るとするのは、多分学校という施設が単独で維持できない、あるいは複合化していく。幼小連携とかそういうこともあるでしょうし、ということ、コミュニティセンターなど色々な公共施設の機能と連携したり、あるいは学校がまちに開いていくとか、そういうところも施設の観点ではあるのかなということ、そうすると高学歴に価値がなくなるような社会になるのかなと思うと、色々な多様な学びを持った多様性のある子どもを育てていくというような、そういう教育もあっているのかなと思いました。

清家区長
大山委員

ありがとうございます。ほかにご意見ございますか。

教育のところだけではないのですが、全体をとおして地域コミュニティという言葉がほぼ全部に載ってきていると思うのですが、地域コミュニティと言ったときに、それは区民・住民としか思わない人と、昼間港区民である事業者も含めて考えなければと思っている人がいると思うのですが、圧倒的に前者が多いと思うので、港区は、法的な仕組みはともかく、昼間港区にいる人たちもコミュニティの一員と捉えているとすると、先ほどの防災についてもコミュニティで防災を、というところは必然的に事業者も入ってくるとか、そういった意味では港区の中にある私立の学校もある意味事業所に近いものですが、そういったところもコミュニティの一員として入ってくるので、向こうが参加してくるかどうかはともかく、港区としてはそういうふうには捉えているのですよという、そういうことがこの2040のビジョンの地域コミュニティと言ったときに、そこまで含んでいるということが明示的に分かって港区らしくなるのかなと思います。

清家区長
古長谷委員
清家区長

ありがとうございます。大丈夫ですか。古長谷委員。

2040年の将来像のところについては。

全体について、というところで持ってこようと思ったのですが、教育は終えて、全体像について資料3～6ページについて、全体の将来像についてということで皆様からご意見を伺いたいと思います。今、大木

古長谷委員	<p>委員からいただいた地域コミュニティの話もこちらに入っているかなと思うのですが、古長谷委員、この全体の将来像についてということで、お願いします。</p> <p>これまで色々意見が出たと思うのですが、港区として全部やるというのはさすがに難しいことだと思うので、優先順位をどうつけるかをしっかり考えなければならないと思っています。要はどこを特徴として持ってくるのか。例えば国際性がワードとしては入ってくるのかなと思っています。そのあたり将来像には国籍に関係なく、というところでは入っていますけれど、全て網羅しようとしている印象が強く、何を重点的に取り組むのかが明確でないように感じます。</p> <p>港区とは何かと聞かれて、泉山委員が言っていたとおり、港区で連想するものが、まちであっても、区であっても、今連想するものでいうと特定の偏ったイメージを多くの人々が持ってしまう現状があって。</p> <p>この将来像では港区とは何ですか、と言われたときに整理しきれないように感じます。全部やれたら一番いいのですが、港区として将来像を明確に出していくとしたら、何かを削る必要があるのかな。もちろん全部含まれた方がいいが、ワンフレーズで分かりやすいほうがビジョンとしてはいいのでは。そういった意見をほかの委員の方々から聞きたいと思い、提起させていただきました。</p>
清家区長	<p>ありがとうございます。いかがでしょうか。コバーチ委員、お願いします。</p>
コバーチ委員	<p>2040年までは、大使館の建物は変わらないと思うのですが、港区のアピールとしては、外国人が他の区より多いというのは残ると思います。さらに港区は外国人とたくさん会える、外国人と触れ合いがある場所にはなると思うのですが、国際的なイメージは2040年になっても港区は変わらないと思います。</p>
清家区長 遠藤委員	<p>ほかにご意見ありますでしょうか。</p> <p>ほかの自治体との差異化を図る部分はもちろん持っていたほうが、先ほどの港区のイメージみたいなどころでいいと思うのですが、それとは別に色々な課題について、全部できるかは分からないけれども、網羅的にやっていくこと、両方大事かなと思っています。できないかもしれないけれど網羅しているという感じを出していくのもいいと思います。</p>
清家区長 金委員	<p>ありがとうございます。金委員、どうぞ。</p> <p>4ページが一番上の港区の将来像で、「今を引き継ぎ、社会課題を乗り越え、未来を創る。」のところで、次の「歴史と未来」「都会と自然」「地域と世界」が交差し、」というところは、港区らしいところがキーワードとして色々出ていますのですが、あっているのではないかなと個人的には思っています。</p>
清家区長	<p>次のワンフレーズ、よく福祉業界でいう言葉なのですが、一番分かりにくい言葉でもあるのですよね。自分らしさというのは自分で思う自分と、他人から見た自分はイコールではないですし、何をもちて幸せと感じるかということが一番分かりにくい部分であることを考えると、2040年を考えたときに、港区は何を目指すのかということをもう少し具体的に、明示させたワンフレーズがこちらにくるといいのかなと、何か案があるわけではないのですが、これではないほうがいいのではないかと思います。</p> <p>ありがとうございます。はい、森山委員。</p>

森山委員	<p>願いみたいなどころがあるかもしれないのですけれども、昨今港区さんと子ども・若者政策で関わっていてすごく感じるのは、ほかの自治体に比べて、国が制度化していないものに積極的に取り組む姿勢と、余裕を感じておりますので、港区への期待としてあるのはモデルをつくっていくことは是非ビジョンのキーワードとしていただきたいと思うのが1つあるのと。</p> <p>もう1つは多様性ですね、ある程度裕福な方の中での多様性かもしれないですけれども、DINKS、外国籍など、多様な家庭の形が混在しているのが港区の特徴でもあると思っているので、多様性はキーワードとして、特徴として際立たせていただきたいと思っているものです。</p>
清家区長	<p>ありがとうございます。ほかにご意見ございますか。古長谷委員どうぞ。</p>
古長谷委員	<p>根本の話になってしまうのですが、このフォーマット自体をそもそも別のものにしてもいいのではと思っております。</p> <p>渋谷区では、コピーライター等が入って、渋谷区はどういうまちかを文章で表現したものが公開されており、他区にもそういった事例があります。決してこの形にとらわれる必要はないのではないのでしょうか。皆様からいただいたご意見を全てまとめると、現在のフォーマットには収まらないような気がしております、区としてこのフォーマットがよい理由があるのであればお聞かせいただけますか。</p>
清家区長 相川企画課長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ありがとうございます。事務局からお答えさせていただきます。このフォーマットで必ずやっていくということではございませんので、本日色々なご意見等いただいておりますので、そこを含めてどのような形がいいか検討していきたいと思っております。</p>
清家区長 古長谷委員	<p>大丈夫ですか。</p> <p>渋谷区の例を申し上げますと、「渋谷区の未来像」として、1つ目、2つ目という形で整理された内容のうえに、詩的な文章がメディア等でも分かりやすい形で公開されており、そういった構成になっています。</p>
清家区長	<p>分かります。今いただいたたくさんのご意見、どれも重要な、そしてこれからの港区を描いていくうえでハッとさせられるようなお言葉もたくさんありました。どうやって伝えていくかという部分につきましては、またこれから、今いただいた要素は全部ビジョンとして本当に重要なことだと思いますし、それを伝えるときには違う手段の言葉ですとか、その選び方というものがあると思っておりますので、その辺については今後もそういう形で進めていきたいと思っております。</p> <p>ありがとうございました。予定していた終了時刻となりましたので、本日の意見交換はここまでとさせていただきます。</p>
清家区長	<p>皆様、本日は貴重なご意見を数多くいただきまして本当にありがとうございました。</p> <p>今年の5月にMINATOビジョン コ・デザイン会議を立ち上げて以来、委員の皆様とともに、2040年代の港区の将来像について議論を重ねてこられました。この成果として、本日こうした将来像を無事にまとめることができまして、本当にありがとうございます。本日の会議を踏まえて、今後庁内での議論・検討を経て、2040年代の港区の将来像として、しっかりまとめてまいりたいと思っております。</p> <p>令和8年度、いよいよMINATOビジョンの具体的な中身づくりのほ</p>

うに着手してまいります。骨子が整いました際に、再び皆様にご意見を
いただきたいというふうに思っておりますので、引き続きどうぞよろしく
お願いいたします。

それでは以上を持ちまして、第2回MINATOビジョン コ・デザイン
会議を閉会いたします。

本日は誠にありがとうございました。来年もどうぞよろしくお願いいた
します。

閉会

以上